

だから、兼載は江戸だけでなく、心敬に従って関東の各地を歩いて勉強をしました。後に協力しあう宗祇も、そのころ関東に来ていたので、兼載は先輩宗祇の教えもうけました。連歌を作るだけでなく、連歌師になるために必要な学問も学びました。短歌や古典の勉強は大切で、特に古今伝授という秘伝もさずけられました。

京都北野天満宮

文明七年（一四七五年）、兼載は京都の北野天満宮で開かれた連歌の会に初めて出席することができました。二十四歳の若さでした。

そのころは、都も幕府も京都にあつたので、政治も文化も、すべてが京都を中心として動いていました。連歌もやはり京都が中心で、兼載の先生である心